

アメリカ家政学の系譜 - 学会誌分析 - (第3報)
 金城学院大短大 東珠美、 関アルバイトタイムス ○大石美晴、名古屋文理短大
 鈴木真由子、 梶山女学園大家政 守谷敏子、 大阪市立大生活科学 古寺浩
 静岡大教育 菅原亜子、 村尾勇之

目的 本研究の目的は、前報までに述べてきた通り、アメリカ家政学会誌に報告された家政学研究の内容が時系列を追ってどのように推移してきたのかを追求し、それを通して家政学の本質を明らかにするところにある。前報までに、学会誌目次構成項目を系統化し、その累計を求めたうえで、対象論文を特定し、対象論文を年代別・10分類領域別に分析することで、研究内容の歴史的系譜について概観した。本研究では、これらの結果を踏まえ、10分類領域中の「家政学原論領域」に注目し、それを更に細かい領域に分割し、これらの中分類領域を分析することにより原論研究内容の歴史的系譜について概観しようとする。

方法 本報では、前報と同様に、1909年～1989年の JOURNAL OF HOME ECONOMICS (82年間 724冊)、1972年～1989年の HOME ECONOMICS RESEARCH JOURNAL (18年間・76冊)を資料とした。分析方法は、①「家政学原論領域」の総数、年代別・中分類領域別論文数から量的に「家政学原論領域」を明らかにする。②各年代毎に中分類領域別論文数を指数化し、時系列的推移から中分類領域毎の特徴を捉える。③中分類領域の構成比を求め、相互関係及び質的变化を把握する。また、構成比に基づくレーダーチャートを作成し、パターン類似率を算出する。更に、これをデータとして群内平均法によるクラスター分析を行なう。

結果 ①家政学原論研究は、量的には時系列を通して、ほぼ安定的に推移している領域であること②家政学原論研究では、「家政学論」、「家政学史・学説史」、「家政学について」が特徴的な推移を示していること③構成比からみた中分類領域別論文数の時系列的推移により、各領域間の相互関係が明らかにされた。